

# 地域安心安全アクションプラン

夜道が危ない

どんな危険が？

放火が怖い

どこに避難？

## 背景

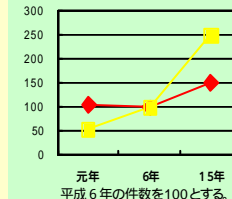
### 地域活性化の大前提として、身近な生活空間における安心・安全の確立が喫緊の課題

身近な安心安全情報を共有してきたコミュニティが弱体化  
大規模地震など自然災害により 大きな被害が想定  
空き巣やひったくり 子供をターゲットとした犯罪などが増加

大規模地震の被害想定

	死亡者数 (千人)	経済損失 (兆円)
東海地震	9.2	3.7兆円
東南海・南海地震	17.4	5.6兆円
南関東直下地震	150.0	32.5兆円

犯罪件数の増加



## 施策の方向

自主防災組織やコミュニティ等の住民パワーを活かし、地域の安心・安全を構築するため、防災・防犯等に幅広く対応する地域拠点・ネットワークを創出

阪神・淡路大震災では、救出者の98%が住民パワーによるもの

住民によるパトロールや不審者情報等の緊急メール配信に取り組んでいる地域では、街頭犯罪が減少

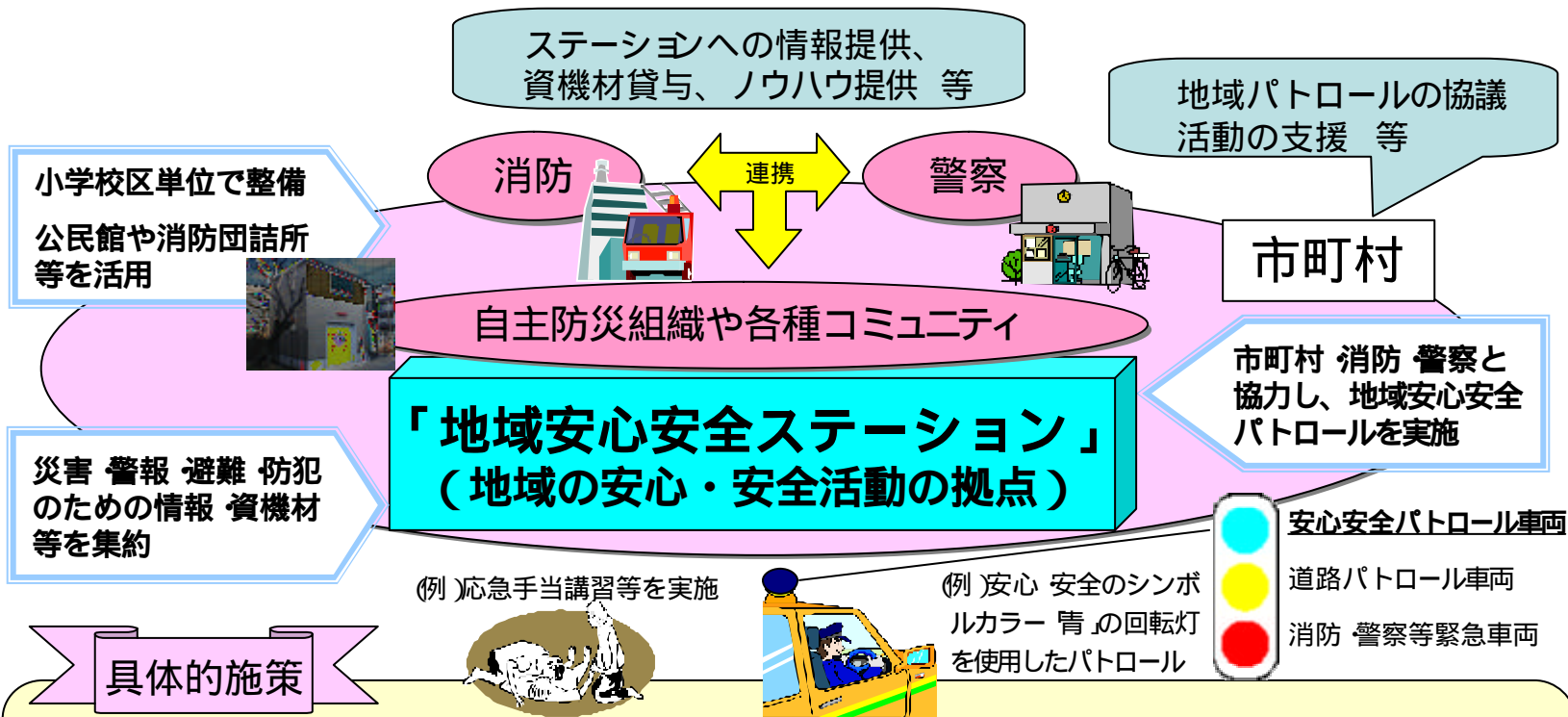
### 地域安心安全ステーションの整備

公民館や消防団詰所等に資機材・情報を集約するとともに、地域パトロールを支援

### 地域安心安全情報ネットワークの構築

インターネットや携帯電話等を活用した情報共有システムを構築

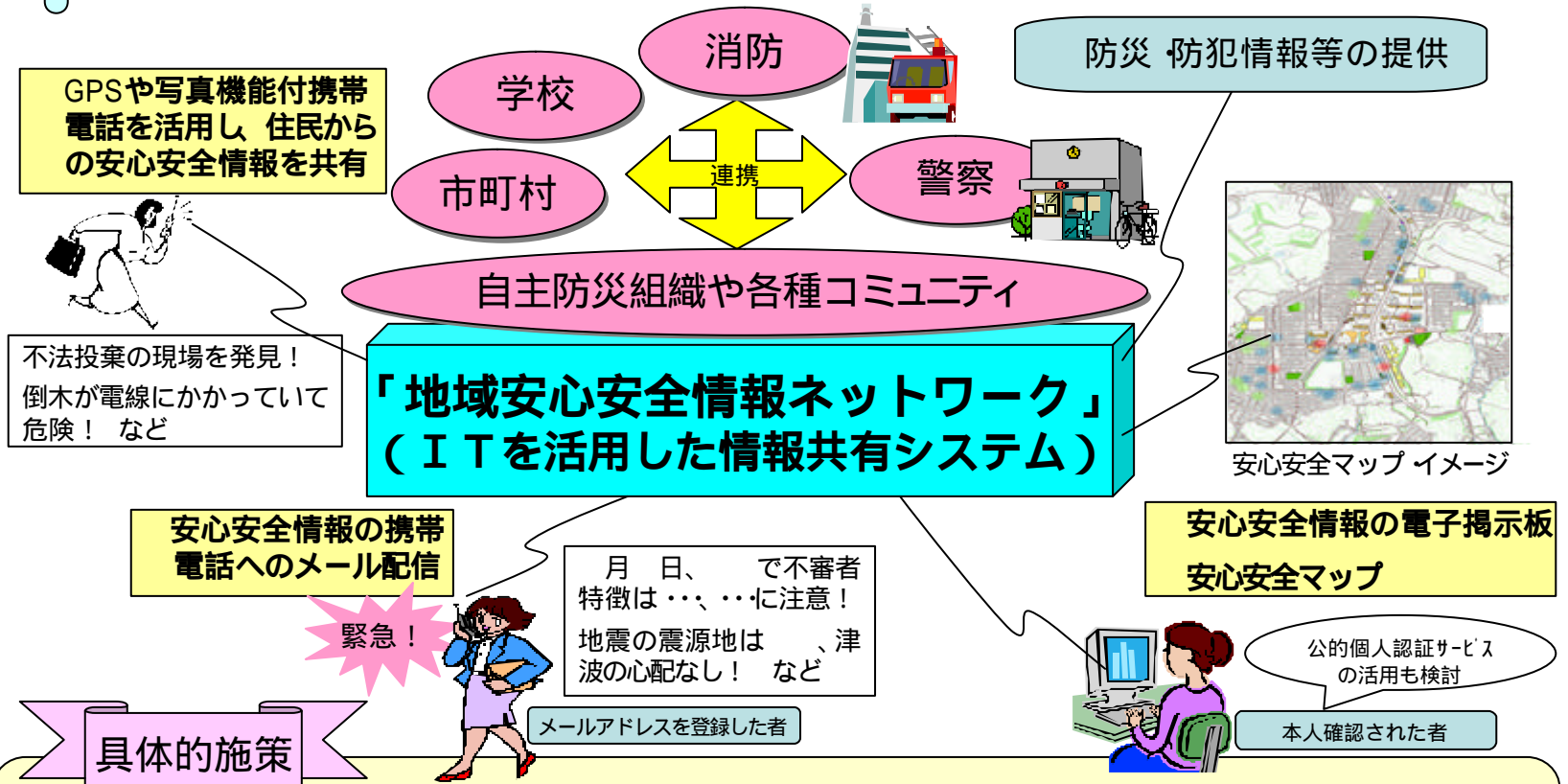
# 地域安心安全ステーションの整備 ～ 安心・安全活動の拠点づくりと地域パトロールの支援～



ステーションに対して、デジタル防災無線、救出救助器具、応急手当用資機材（AED・訓練用資機材）、避難・消火訓練資機材等の防災資機材を優先配備し、ステーションを中核とした訓練や応急手当講習等の実施を推進

自主防災組織や各種コミュニティが、市町村を通じて、消防・警察等地域の各種組織と協力し、ステーションを拠点として行う「地域安心安全パトロール」に対して、その活動を支援するとともに、そのパトロール車両のあり方を検討し、必要な制度改正を推進

# 地域安心安全情報ネットワークの構築 ～ I T を活用した地域安心安全情報共有システムの構築～



ITを活用した「地域安心安全情報共有システム」開発・実証事業を実施するとともに、開発したシステムは、希望する地方公共団体に無償で配布  
安心安全マップ作成の支援（防災情報・ノウハウの提供等）  
セキュリティ確保のため、公的個人認証サービスの活用も検討

# 今後の施策展開（モデル事業の先行実施）

## モデル事業の実施

地域安心安全アクションプラン具体化のため、平成16年度から先行的にモデル事業を行い、17年度以降の施策展開のための評価・検証を実施

### 地域安心安全ステーション整備事業

ステーションを拠点として、防災・防犯等の活動に幅広く取り組むコミュニティ組織を有するモデル市町村に対し、自主防災組織としての資機材整備、消防職員による消火訓練・応急手当訓練の実施、警察官による安心安全パトロールのノウハウ提供、等の支援メニューを用意

### 地域安心安全情報ネットワーク構築事業

地域安心安全情報共有システムを活用して、地域の安心安全の確立に取り組むモデル市町村に対し、開発したシステムを提供するとともに、必要な機器整備等を支援

## 当面のスケジュール

16年 6月 10日 防犯パトロール車に青色回転灯の装備を認める仕組み（案）を公表  
（警察庁・国土交通省）

6月中 総務省・消防庁・警察庁による協議会立上げ  
モデル市町村の公募開始

7月中 モデル市町村の選定 地域安心安全ステーション整備事業・・・10箇所程度  
地域安心安全情報ネットワーク構築事業・・・10箇所程度